

経済振興委員会報告資料

アジア美術館 魅力向上に向けた
基本計画の検討状況について

令和 7 年 12 月
経済観光文化局

アジア美術館は、1999年(平成11年)にアジアの近現代美術を系統的に収集し展示する世界に唯一の美術館として開館して以降、その先駆的な取組みによって、市民の貴重な財産となっているが、その価値や魅力を広く市民に届け切れず、十分に活かしきれていないことから、令和5年度より魅力向上の検討を行っている。

これまでの検討を踏まえ、アジア美術館の拡充先を「警固公園地下」としたうえで、令和7年度はアジア美術館の魅力向上に向けた基本計画策定に関する検討を行っており、現在の検討状況について報告するもの。

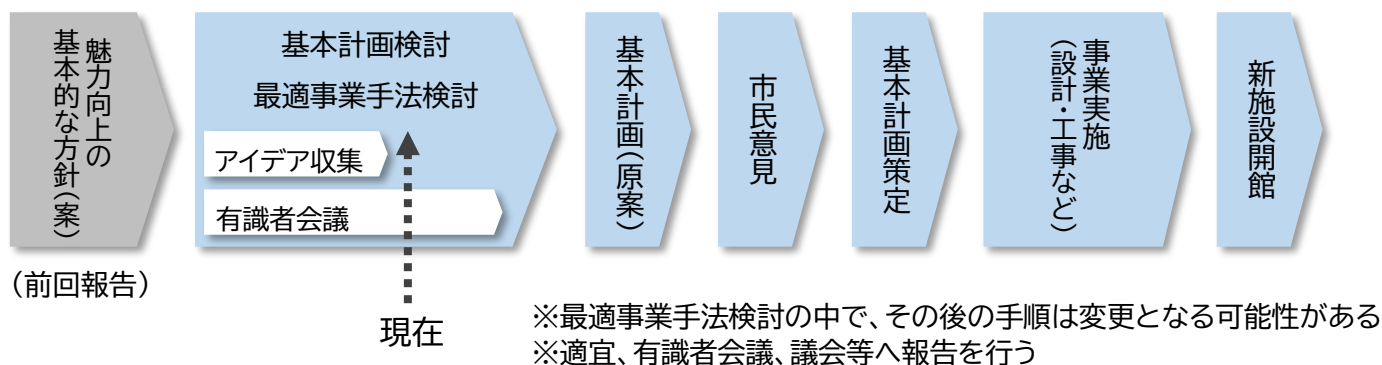
1 基本計画策定に向けた取組み

現在の検討状況を踏まえ、引き続き、有識者会議等を行いながら、アジア美術館の魅力向上に向けた基本計画策定に関する検討を進めていく。

○これまでのアジア美術館の魅力向上に向けた検討状況

- 令和6年 2月 経済振興委員会へ検討状況を報告(アジア美術館の現状と課題、課題解決の方向性)
- 令和6年 9月 経済振興委員会へ検討状況を報告(機能拡充の方向性、拡充先の条件整理)
- 令和6年 12月 経済振興委員会へ検討状況を報告(拡充先の土地の評価比較、警固公園地下駐車場の検証)
⇒拡充先について、複数の候補地を評価比較した結果「警固公園地下」を選定
- 令和7年 6月 経済振興委員会へ検討状況を報告(基本的な方針案)

○検討のステップ(案)



2 拡充先における施設整備について

新たに拡充する、警固公園地下への施設整備については、以下のとおり整理する。

(1) 拡充先における施設整備の基本的な方針

1. まちをつなぎ、人をつなぐ 福岡の新たな顔

①公園との連携、一体化

- ・福岡の都心の真ん中にある、市民の憩いの場である警固公園と、連携、一体化しながら、誰もが憩える魅力的な文化的空間を創出し、まちへも広げる仕組みづくり

②まちの顔となる高い意匠性

- ・人々を惹きつけ、福岡の新たな顔としてふさわしい、高い意匠性を有する施設
- ・外光が入る空間や開かれた空間を設けるなど、地上の公園と地下の美術館をつなぐとともに、アートとの出会いを演出する象徴的なエントランス等の整備

③まちづくりへの貢献

- ・周辺環境と調和しつつ、美術館と公園、まちをつなぎ、都心部のアート、文化観光の核として展開できる施設

④地域との多様な連携

- ・周辺の施設や企業等と連携ができ、地域の回遊性やブランド価値の向上に貢献し、相乗効果を得られる施設整備

2. 持続可能で安心・快適な美術館

①環境への持続可能な配慮

- ・既存構造物の再利用や省エネルギー機器の導入等、環境へ配慮した施設整備
- ・適切な維持管理等、持続可能な運営を実現する施設整備

②その他の視点

○快適に楽しめるユニバーサルデザイン

- ・誰もが文化芸術を快適に楽しめる、バリアフリーやユニバーサルデザインの実現

○人と作品を守る高い防災性

- ・来館者の安全と市民の財産である美術品を守るため、地下空間の特性を踏まえた浸水対策等の取組みを進め、高い防災性能を確保する
- ・地上に一時保管庫を設けるなど、バックアップ機能を備えた施設
- ・施設の防犯性能を確保し、地域の安全安心にも貢献する施設整備

(2) 諸室の考え方

拡充先の主な美術館活動等については、「展示」、「学び・体験」といった美術館活動に加えて、「にぎわい・集客」の機能を担うこととし、必要と考えられる機能および主な諸室イメージを以下のとおり整理する。

美術館活動等	必要と考えられる機能 ※面積については目安。今後の検討により変更	主な諸室イメージ ※室名は仮称
展示	・アジア美術の傑作を中心に、コレクション展に加え、多様な企画展や特別展等に柔軟に対応でき、大型作品をダイナミックに展示できる空間を備える展示室 ・作品の搬入から搬出まで円滑かつ安全に行える動線の確保 約3,000㎡（うち ギャラリー約2,000㎡）	ギャラリー、展示準備室、一時保管庫、搬出入口、トラックヤード等
学び・体験	・展示やコレクションに関連したワークショップ活動等のイベントを行う ・団体見学や対話型アート鑑賞等の受け入れに十分に対応できる空間 約600㎡	多目的室、ワークショップ室、ボランティア室等
エントランス、にぎわい・集客	・アートとの出会いを演出するアプローチやエントランス ・ナイトコンテンツやユニークバニユー等の活用も見込める十分な空間 ・屋外においてもアートを感じられる空間 約1,500㎡	魅力的な導入部分となる象徴的なエントランス、イベント等での飲食提供機能等

全体床面積(目安) 7,500～9,000㎡ (参考:現 地下駐車場の1層あたりの床面積 約4,900㎡)

※福岡市美術館の作品の活用等も今後の展示計画の中で検討

(3) 拡充先の利用計画

以下の2つの考え方を踏まえ、拡充先の利用計画を検討していく。

①アクセス（公園との動線等）等の考え方

項目	検討のポイント
来館者・公園来訪者のアクセス	・交通結節点を踏まえた、地上・地下からの、来館者の円滑なアクセスの検討や、公園来訪者の動線等を踏まえたアプローチやエントランス等の施設配置の検討
車両のアクセス	・周辺の道路事情を踏まえた、歩行者の安全に配慮した車両動線の検討（搬出入の車両、車いす使用者用駐車場等） ・美術品等の搬出入時の利便性、セキュリティ等に配慮した車両動線計画

②公園等との連携の考え方

項目	検討のポイント
公園との連携・一体化	・公園と連携しながら、誰もが憩える魅力的な文化的空間の創出（屋外展示等） ・外光が入る空間や開かれた空間を設けるなど、地上の公園と地下の美術館をつなぐとともに、アートとの出会いを演出する象徴的なエントランス等の整備 ・既存の公園機能の確保（広場機能等）や公園の魅力、利便性向上
緑地の確保	・既存面積以上の緑地の確保
地域のニーズへの貢献	・地域ニーズへの貢献ができる取組み

3 アイデア収集結果

(1) 概要

目的	民間事業者からアジア美術館の魅力向上に係るアイデアや実現手法等に関する意見を収集し、今後の検討の参考にすることを目的とする。
提案受付	令和7年8月25日～8月28日（要項公表:令和7年7月7日）
収集結果	参加者:10者(不動産業、建設業、イベント企画等) ※提案内容の詳細は参考資料参照 警固公園地下への施設拡充に関するアイデア …8者 アジア美術館現館(川端)に関するアイデア …5者

(2) 民間事業者の主な提案・意見

警固公園地下への施設拡充に関するアイデア(主な提案)	
ア 魅力向上に資するアイデア、事業提案(コンセプト等)	・アジア美術を体感する展示の工夫 ・多様な交流の舞台となる場 ・地下駐車場という特殊空間の活用 ・人を惹きつけるデザイン・建築的魅力 など
イ 警固公園地下及び地上部の活用方法	・公園からつながる広いロビー ・来館者以外も利用可能な飲食等機能 ・アートを感じられる公園空間 ・地下アクセスによる回遊性の向上 など
ウ 事業範囲、事業手法、事業スキームの考え方	・美術館は公共で整備、運営 ・民間活力を導入した事業手法 (指定管理者制度、PFI-BTO、Park-PFI、立体都市公園制度など) など
エ 提案にあたっての課題や市への要望等	・官民連携によるイベント等賑わい創出 ・事業推進(設計、運営等)体制の早期構築 ・施設の視認性、開放性、ユニバーサル対応 など

4 施設拡充に向けた事業手法の考え方

○施設拡充の検討にあたっては、公共の財政負担の低減や施設の効率的な運営を図ることを基本に、以下の考え方も踏まえつつ、民間事業者の意見を参考に、アジア美術館の魅力向上を実現する最も適切な手法について検討していく。

①整備面における考え方

都心部の中心に位置する警固公園に施設拡充を行うにあたっては、公園との一体化や象徴的なエントランスをはじめとする建築の意匠性、アートを感じられる屋外空間の創出など、魅力的な建築・空間デザインが必要不可欠となるため、多彩なデザイン提案を募ることができる手法の検討が必要。

美術館の基幹機能を維持し、運営や活動の独自性、柔軟性、継続性を確保できる施設整備が必要。また、来館促進やにぎわい創出に資するサービス機能において、民間の創意やノウハウを活かすことができる施設整備について検討。

②運営面における考え方

これまでの先駆的な取組みの継続により培ったアジア美術館の文化的意義や評価などの強みを最大限活用できるよう市が引き続き担っていくほか、美術館運営、施設管理の効率化や美術館の利用活性化のため、民間ノウハウを活用した体制の検討が必要。

<官民の役割分担イメージ>

市が担っていくもの	民間のノウハウ活用が期待できるもの
・アジア美術館収蔵品の収集、保管、調査研究 ・収蔵品の適切な展示、公開 ・教育普及活動	・維持管理業務の効率化 ・行き届いた接遇等の利用者サービス ・美術館の集客向上や多様な利活用を図るサービスの提供